

かけはし

第30号 平成9年7月15日発行
発行 千代田区教育委員会



新緑の塩沢湖にて（軽井沢）

主
な
記
事

- ☆千代田区の学校給食
- ☆腸管出血性大腸菌O157への対応策
- ☆ようこそ!! ウェストミンスター
市立学校生徒のみなさん
- ☆小学校における国際理解教育
- ☆学校行事ア・ラ・カルト（1学期）

ウェストミンスターの仲間全員で軽井沢に行くことができました。

すがすがしい高原の湖は、柔らかい若葉で包まれていました。日本のこの美しい自然を、私たちは決して忘れることはないと思います。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

千代田区の学校給食

飽食の時代と言われる昨今、学校給食の是非が議論されるようになってきました。確かに戦後の食糧難時代の学校給食の目的から大きく変化し、現在では児童・生徒が生涯にわたって健康に過ごすことができるよう、望ましい食習慣や食生活の知恵を培うということが学校給食の主目的になりました。

千代田区では、学校調理方式を採用し、温かく、美味しい、手作りの給食を目指しています。特に、献立、栄養面、食品構成、調理などにはきめ細かい配慮をすることにも、安全、衛生面にも十分留意し、事故防止に万全を期しています。

今回は、給食を実施している各学校の栄養士に、給食作りについてコメントをもらいました。

麹町小学校

昨年からのO157の対策については、児童や保護者の理解と協力が大切です。

先日、児童の放送委員会活動として、「給食室の一日」というビデオ撮影を行い給食時に全校放送しました。また、保護者には、授業参観日に講堂で見ていただきました。日頃子供と接する機会の少ない調理師たちの働く姿や衛生管理の厳しい給食室の様子を理解していただく良い機会になりました。

九段小学校

五月に、一年生の保護者を対象とした試食会を行いました。当日は、親子で楽しく会食し、普段は残しがちな野菜も全部食べました。また、アンケートにも記入いただき大変参考になりました。

食中毒のしやすい時期、衛生に注意しながらおいしい給食作りに専念しています。

番町小学校

小さい子も大きい子も、児童みんなが自分の健康を考え、給食を楽しみながら食べてもらえるよう工夫しています。

給食委員会の子供たちも掲示物等を工夫して作成しています。それを見て残さず食べてもらえればと考えています。

富士見小学校

転入児童の多い本校では、転入当日でもみんなと同じ給食が食べられるようにしています。また、アレルギーがある児童には、除去食等に対応しています。

今日も一年生の「こちそうさまでした」という元気な声が給食室に響いてきます。

お茶の水小学校

子供たちの給食に対する素直な声を聞きたいと思い、給食意見箱を置いています。いろいろな意見が集まります。調理師と一緒に読みながら、おいしい給食作

りの参考にしています。子供たちに「給食楽しみだなア」と言われる度に、「給食楽しい時間」であることを思い、その心を盛り上げる給食の演出をしたいと感じています。

千代田小学校

本校では年に五、六回、子供たちの祖父母や地域の高齢者の方々をお招きした「ふれあい給食」に力を入れています。明るく和やかな会食が好評で、「来年も楽しみにしているからね。」と子供に語りかけて帰られる姿がとても印象的で、子供たちも楽しみにしています。

昌平小学校

本校の給食担当者は、毎日児童に安全で健康に留意した給食を作っています。特に衛生面での対応を考え、厨房はセミドライ方式を採用しています。

美しい陶磁器の食器を使い、児童が楽しく給食を食べられるよう配慮しています。また、栄養士・調理師・給食主任がよ



▲楽しい給食の時間（お茶の水小）

りよい献立になるよう、取り組んでいます。

和泉小学校

毎月一回、その月にお誕生日を迎える子供たちと教職員がランチルームに集まって「お誕生日給食会」をします。

BGMを流し、テーブルには花を飾ります。お楽しみデザートもつきます。

子供たちが学年を超えて一緒にテーブルを囲み、自己紹介をしたり、おしゃべりをしたりして楽しく食事をします。

「みんな仲良く、楽しい給食」それが和泉のモットーです。

一橋中学校

本校では、週交代で、同学年の生徒・教員が全員そろっての食堂給食を実施しています。クラスを超えて友達や先生方との楽しい食事の時間です。

バランスのとれた食事を提供するとともに、季節の味覚を味わう献立に心がけています。

行事食、季節食を始め、国際色豊かなメニューも取り入れています。

給食時間には、毎日の献立についての一口メモを放送し、食品・栄養・衛生等に関する知識が自然に身につくよう配慮しています。

練成中学校

「食事は楽しく大切なこと」をモットーに、健康づくりの中での食事の大切さを生徒に伝えています。

また、一斉給食なので一日に一回は全校生徒・職員が顔を合わせます。

給食当番や委員会活動も活発です。

腸管出血性大腸菌O157への対応策

教育委員会では、保健所などとの連絡を密にし、また、食材に関わる人、調理師、教員及び児童・生徒並びに保護者の方々など、学校給食に関わるすべての人々の相互協力により、健康で安全な学校給食の確保に取り組んでいます。

衛生に配慮した条件整備を徹底します

- ・学校給食従事者の健康状態は毎日点検します。検便も月二回実施します。
- ・二次感染防止を徹底します。調理機械器具は目的別にそれぞれ専用のものを設けます。まな板、包丁等は、作業中、熱湯などで洗浄・殺菌します。
- ・調理従事者用水道水栓・消毒器具を設けて、手指の洗浄・消毒を行います。

献立・調理に当たって、次の点に気をつけています。

- ・生野菜等については、当分の間使わないようにしています。
- ・フルーツ類は洗浄しやすいもの、皮をむいて食べるもの、缶詰に限定します。
- ・加熱調理するときは、中心温度75℃で一分以上加熱します。揚げ物・焼き物・炒め物など野菜についても加熱処理を行います。
- ・調理室での「あえもの」は行いません。



▲安全第一の給食調理

食材は安全なものを選びます

- ・食材の生産・流通・供給者等に対しては、国（文部省・厚生省）や都衛生局、区保健所の示した方針に基づき、厳しい衛生管理の方針をたて、安全な食材の確保のために全力をあげています。

施設等の掃除・消毒などを徹底します

保存食の確保をします

- ・食材料及び当日の給食をマイナス20℃以下で二週間冷凍保存します。

飲料水の衛生管理の徹底を図っています

- ・飲み水の色、濁り、におい、味や残留塩素濃度を確認します。

家庭へのお願い

今年に入って全国ですでに3000名を超える腸管出血性大腸菌O157の感染者が報告されており、その多くが家庭での感染が疑われています。そこで、次のような予防方法について皆様のご家庭でも十分ご留意下さい。

●流水と石けんで、よく手を洗う
帰宅後・食事の前・用便後・調理の時は、必ず手を洗いまししょう。

●野菜等は流水で十分に洗う
調理の際に生肉、生魚などを切った包丁、まな板やボウル、ふきんなどはよく洗い、家庭用漂白剤で消毒したり、熱湯を通すなどして清潔に心がけましょう。

●食品を中心まで十分に加熱する
加熱を十分に行うことで、もし、食中毒菌がいたとしても殺すことができます。目安は、中心部の温度が75℃で、一分間以上加熱することです。

●調理した食品はすぐ食べる
温かいもの（目安は65℃以上）は温かいうちに、冷たいもの（目安は10℃以下）は冷たいうちに食べましょう。

調理前の食品や調理後の食品は、室温に長く放置してはいけません。早く



▲食事の前に念入りな手洗い

※ 腸管出血性大腸菌O157は飛沫感染（いわゆる空気感染）はしません。また、治療の完了を医師が確認した方からも感染しません。

ようこそ!! ウェストミンスター市立学校生徒のみなさん

千代田区滞在中の生徒の横顔



▲ 一橋中の給食を体験



▲ 歓迎レセプションでパートナーとの再会



▲ 残雪の白根山火口湖を背景に



▲ 軽井沢の宿舎で小学生との交流



▲ 今川中の生徒たちとバスケットボール



▲ 真剣に取り組んだ九段中での授業

ウェストミンスター市生徒の感想

- ◎学校でも親切に迎えてもらい、多くの生徒と話をすることができたので、うれしかった。
- ◎日本の生徒たちは、規則をよく守っていた。日本の学校に行くのは楽しみであったが、言葉が分からず、授業の内容を理解するのはなかなか難しかった。
- ◎ホームステイでは、言葉や食べ物、生活様式

- などが異なり戸惑いもあったが、日本の暮らし方が分かって有意義な体験であった。
- ◎ホストファミリーとは、言葉は十分通じなかったが、自分の子供のように接してくれてとてもうれしかった。もう一度必ず会いたい。
- ◎火山や温泉など、英国では経験できない場所を見学することができ勉強になった。

昨年に引き続き、イギリスのウェストミンスター市立学校の生徒10名が、この5月に来日しました。昨年の秋には千代田区立中学校の生徒がウェストミンスター市に派遣され国際理解を深めてきましたが、懐かしいパートナーとの再会に生徒たちの声も弾んでいました。滞在期間中はホームステイをしながら日本の家庭生活や、学校生活を体験しました。また、新緑の軽井沢では日本の大自然を肌で感じたり、ディズニーランドでは楽しい一日を過ごすこともできました。彼らにとっては、見るものすべてが新鮮な驚きであったことと思います。このような両国の生徒たちの得難い体験が、国際理解や国際親善の輪として、将来大きく広がっていくものと信じます。

また、ホームステイで優しい心遣いをしてくださったホストファミリーの方々のことは、懐かしい思い出として生徒たちの心の中にいつまでも生き続けていくことでしょう。

来日した生徒

(女子は「ザ・グレイコート・ホスピタル」の生徒)



Holly Benson
(ホリー ベンソン)



Jyoti Jani
(ジョティ ジャニ)



Nana Berchie
(ナナ バーキー)



Denise Farrell
(デニズ ファレル)



Anna Burford
(アンナ パーフォード)

(男子は「ウェストミンスター・シティスクール」の生徒)



Ben Asmah
(ベン アスマ)



Imran Malik
(イムラン マリック)



David Kapadia
(ディビッド カパディア)



Chike Nnadi
(チケ ナンディ)



Alan Lee
(アラン リー)

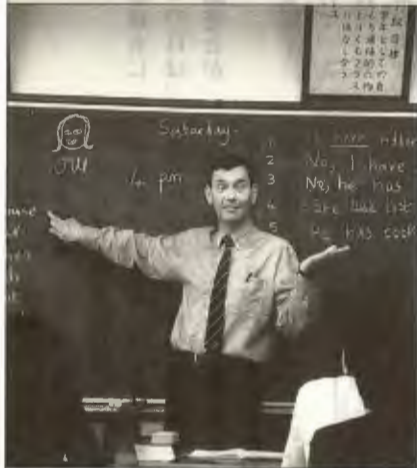
滞在中の交流日程

- 5月11日(日)
 - ・ウェストミンスター市立学校生徒 成田到着
 - ・ホストファミリーとの対面
- 5月12日(月)
 - ・各中学校で生活をする
- 5月13日(火)
 - ・各中学校で生活をする
 - ・歓迎レセプション
- 5月14日(水)
 - ・軽井沢へ
 - (塩沢湖 宿舎メレーズ軽井沢着)
- 5月15日(木)
 - (浅間火山博物館 白根山 草津温泉)

- 5月16日(金)
 - (野鳥の森 白糸の滝 区役所帰着)
- 5月17日(土)
 - ・各中学校で生活をする
- 5月18日(日)
 - ・各家庭でホストファミリーと過ごす
- 5月19日(月)
 - ・ディズニーランドの見学
- 5月20日(火)
 - ・各中学校で生活をする
- 5月21日(水)
 - ・成田発 帰国の途へ

ウエストミンスター市からの派遣教員の紹介

ウエストミンスター市からの派遣教員制度が始まって2年目を迎えました。昨年度活躍されたキャサリン・レイン先生が1年間の任期を終えて帰国され、5月1日付けで後任のグレアム・フレッチャー先生が着任されました。フレッチャー先生は、前任のレイン先生と英国の同じ学校の同僚でもあります。これから1年間、区立中学校（主として九段中と練成中）の英語指導と国際理解教育を担当することになっています。また、先生はフランス語にも堪能で、語学指導に熟達しています。中学生たちに生きた英語を指導していただけることと思います。



Graham Fletcher
グレアム・フレッチャー先生

日本の印象

まず、日本人については「フレンドリー」「ヘルプフル」、この二つの言葉に尽きると思います。日本人はとても親切で、いつ、どこでも私を助けてくれます。日本の中学生については、大変勉強熱心ですが、はずかしがり屋なのか質問しても返事が返ってこないことが多く戸惑っています。学校の印象としては、先生と生徒がとても温かい良い関係であるように思えます。そして日本の英語の先生方は、従来の文法一辺倒の学習ではなく、先生と生徒、あるいは生徒同士のコミュニケーション能力を高めるような指導も工夫しているように思えます。

現在住んでいる四番町の住宅は、ロンドンの私のアパートと同じくらいの広さで、デザインも良く、なんでもそろっていて住みやすくとても快適です。日本にいる間に、いろいろな所へ行って日本の多くの人たちと話がしたいと思っています。



▲ 上級生と一緒に遊んだ全校遠足（麹町小）



▲ 堀恋でジャガイモの植え付け（九段小）

学校行事 ア・ラ・カルト (一学期)



▲ 軽井沢「野鳥の森」でバードウォッチング（一橋中）



▲ 箱根神社の古木の前で（千代田小）

小学校における 国際理解教育

今日の世界は国際的な相互依存関係が深まり、わが国の国際化もますます進んでいます。国際化という、人と人との相互理解、相互交流が基本であり、その意味で学校における国際理解教育は極めて大切なものといえます。

そこで今回は、千代田区の小学校における国際理解教育の現状を、文部省の帰国子女教育受入推進地域センター校である富士見小学校を例に紹介したいと思います。

今、世界の国々や人々と手をつなぎ合うような様々な努力がなされています。日本と世界の「かけはし」を築こうとしているのです。では、だれがこの「かけはし」を築くのでしょうか。それは、私たち自身であり、次の時代を担う子供たちなのです。

★外国人学校との交流活動
学校から歩いて五分ほどのところに「リセ・フランコ・ジャポネ」というフランス人学校があります。毎年、その学校と本校の二年生が交流の中心となっており、秋から冬にかけて、お互いに行ったり来たりして様々な交流活動を行っています。昨年は、「手作りおもちゃ大会」に招待したり、「クレープ・パーティー」に仮



▲ リセ・フランコ・ジャポネの児童と交流

装して参加したりしました。リセ・フランコ・ジャポネとの交流は、今年度で四年目を迎え、ますます盛んになってきています。今年の五月十二日には、晴天の

下、四年生が「フランス人学校アジア地区合同スポーツ大会」で、富士見わんぱく太鼓を披露しました。四年生全員による威勢のよいパチパチは、フランスの子供たちを始め、フランス大使・観客から拍手喝采を浴びました。また、フランス人学校の子供たちと混合リレーに出場しました。文化とスポーツによる交流はお互いの子供たちにとって世界を広げるよい機会となりました。

『東京中華学校』との親交も深めています。昨年の「国際ふれあい音楽会」では、東京中華学校の五、六年生による鼓笛の演奏に加え、音楽の先生の指導の下、会場の人々全員で中国民謡「太湖船」を中国語と日本語で大合唱しました。雄大な中国の自然を彷彿させる歌詞と美しいメロディーが講堂いっぱいに響きわたり、子供たちを中国へと誘うようになってきました。「音楽は世界共通語」という言葉をお互いに確かめました。

★外国人講師による英語に親しむ活動

「グッド モーニング エブリワン」
「グッド モーニング ミスター・ピダーソン」

毎週月曜日、カナダ人のピダーソン先生が来校し、英語の学習を指導してくれます。ピダーソン先生との学習は、今年度で五年目になります。ピダーソン先生は、すっかり子供たちの人気者です。ピダーソン先生も子供たちの様子をよく理解してくれています。今年度、一年生は、『ダック、ダック、グース』（「ハンカチ落とし」に似ている。）のゲームで遊

んだり、三年生は、『ドミノ・ゲーム』（総合わせカード遊び）を楽しんだりしました。六年生になると、「私は、六時に起きます。」等の簡単な文を書いたりしています。今年度は、ますます充実した英語の学習に取り組んでいます。



▲ ピダーソン先生による楽しい授業

随想

きょういく

過日、水戸で行われた研修会に参加する機会を得た。その日は、偕楽園の梅落としがあり即売会が行われていた。

水戸の「偕楽園」は、天保十二年（一八四一年）から十三年にかけて、九代水戸藩主徳川斉昭によって造られた。斉昭公は、詩歌を唱い、管弦の楽器を奏で、筆画の筆をふるい、庭石に座って茶をたて、花を眺めながら酒樽を傾けるもよしとして「梅樹数千株を芸え」て「偕楽園」を造った。造成に先立って偕楽園の趣意を示す偕楽園記がつくられ、現在園庭西の一隅にこれを刻んだ碑が建っている。

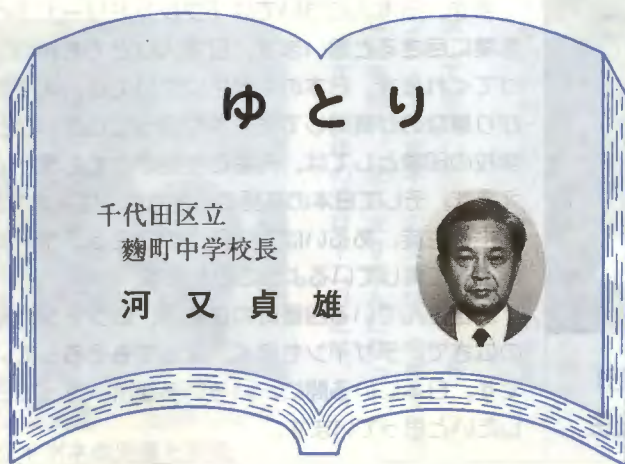
本文は二つの段落に分かれ、前段では、天地自然間に蔵存する陰陽相反するものの調和によって万物は健全育成するという原理に基づいて、人間の心身の保全もこの道に従うべきことを説いている。

後段では、前段の理論を実践する場として、この園を造成した経緯を述べ、学び（励み）かつ遊ぶというこの屈伸の調和を常に心がける者こそ、われと偕に楽しむ資格ありという意をこめて、これを「偕楽園」の三字に集約するとある。

「天に日月有り、地に山川有り。万物を曲成して遺さず。禽獸草木各々その性命を保つものは、一陰一陽その道を成し、一寒一暑その宜しきを得るを以てなり。これを弓馬に譬う。弓に一張一弛有りて恒に勁く。馬に一馳一息有りて恒に健し。弓に一弛な

ければ則ち必ず撓み、馬に一息なければ則ち必ず瘡る。これ自然の勢なり。」

これは、偕楽園記の前段に書かれた一部である。（天上に日と月があり、地上には山と川がある。自然は万物をこのように一つ一つ細かく完全に造り成している。鳥獸や草木がそれぞれ生まれながらの天性と生命を保っているのは、このような陰と陽、



千代田区立
麹町中学校長
河又貞雄

寒と暑という相反するものが自然の道理にかなない調和を保っているからである。これを弓や馬にたとえ、弓には弦を張る時と、はずして弛める時があつて常に強く、馬も一走りする時と一休みする時があつて常に丈夫なのである。弓の弦を張りつめたままにしておく、弦はたるんで使いものにならなくなり、馬も休まなければ必ず弱っ

て死んでしまう。これは自然界の成りゆきである。」

—口訳・望月安雄—

昨年の七月、第十五期中央教育審議会第一次答申が示された。これからの教育では子供たちに「生きる力」を育むことが大切であると述べられている。そのためには子供たちにも、学校にも、家庭や地域社会を含めた社会全体にも「ゆとり」が重要である。「ゆとり」を持たせることによって、子供たちは、自分を見つめ、自分で考え、また、家庭や地域社会で様々な生活体験や社会体験を豊富に積み重ねることが可能となる。そのために、子供たちに家庭や地域社会で過ごす時間、すなわち、子供たちが自発的に使える時間をできるだけ多く確保することが必要であるとしている。

今から約一五〇年前、「唯意の適する所に従つて弛張せば、乃ちその宜しきを得ん」ことを願つて「ゆとり」の場所を藩内の人々に提供した。これは、中教審に示されているこれからの教育指針に合う考え方であり、改めて感心させられた。

今の子供たちにも、社会全体で「弛む」時間と場所を提供し、心の「ゆとり」や考える「ゆとり」を確保して、「生きる力」を育んでいきたい。

かわまた さだお
区立中学校長

編集後記

昨年一年間に海外に出かけた日本人は、一七〇〇万人に達したそうです。円高など海外旅行をしやすいい条件がその大きな要因だと思えますが、それにしても大変な人数です。また、来日する外国人の人数も年々増加しているそうです。

今号では「国際理解教育」についてご紹介しましたが、人が国際的に交流し合うことはそれぞれの国や国民を理解する上で、とても大切なことだと思います。さて、まもなく始まる夏休みには、「メレーズ軽井沢」「軽井沢少年自然の家」「保田臨海学園」「孺恋自然休養村」など区の諸施設を大いに利用し、大自然の中でゆつくり過ごされるのすばらしいことではないでしょうか。

ともあれ、長い夏休みを子供たちが健康で有意義に過ごすことができるように、家族全体で楽しく計画を立てていただければと思います。

なお、「千代田区の指定文化財」は、紙面の都合により掲載できませんでした。「かけはし」についてのご意見・感想・ご要望をお待ちしています。

教育広報「かけはし」第三十号
平成9年7月15日発行
編集発行／千代田区教育委員会

〒102 千代田区九段南1-6-11
☎(03)26401511 内3114

きょういく

随想